

令和6年11月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 川 口 雅 丈

自 民 党 工 藤 知 彦

公 明 党 武 田 正 子

市 民 ク ラ ブ 花 田 清 美

秋 水 会 小 木 田 喜 美 雄

フロンティア秋田 船 木 純

自 民 党 熊 谷 重 隆



1 これからの秋田市について

- (1) 市長は、外旭川地区への新スタジアム整備を公約に掲げているが、同スタジアムを八橋地区に整備した場合、これまで市長自身が思い描いてきた外旭川地区まちづくりは実現できるのか
- (2) 新スタジアムを八橋地区に整備した場合、八橋運動公園周辺をスポーツゾーンとして一体的に整備すべきと考えるがどうか
- (3) 卸売市場の再整備により生じる余剰地に新スタジアムを整備しない場合、当該余剰地に観光誘客施設を併設してはどうか
- (4) 小学校の適正配置について、2040年に想定される児童数から学校数を検討したものであるが、その後も出生数の減少が見込まれることから、さらなる見直しを行うべきと考えるがどうか
- (5) 人口減少に伴い、今後、保育所等や介護施設に余剰が生じると考えられるが、市としてどのように対応していくのか
- (6) 市有施設の適正な維持管理を行うためにも、全ての施設で使用料を徴収する考えはないか、また、どのような考えの下で、市有施設の更新を行っていくのか
- (7) 令和5年7月の豪雨では、内水氾濫による被害が甚大であったことから、今後、どのような対策を講じていくのか
- (8) 市長は、次期市長選に出馬する考えはあるのか

2 地域の諸課題について

- (1) 市道大堰反線の拡幅を検討してはどうか
- (2) 都市計画道路川尻広面線横町工区周辺のまちづくりについて、本市はどのように関わっていくのか
- (3) 中心市街地循環バスの運行ルートについて、現行ルートと反対回りのルートを整備してはどうか

3 市立秋田商業高等学校について

(1) 校舎の老朽化が進んでいることから、建て替えが必要と考えるが、現在の検討状況はどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 市長就任以来、これまでの市政運営をどう自己評価しているのか、また、今後の市政運営に対する思いと5期目に向けた決意はどうか

2 新スタジアムの整備について

- (1) 新スタジアムは八橋運動公園内に整備するとのことであるが、事業主体、整備手法及び整備費用はいつ頃決定する予定なのか、また、市民や議会との合意形成をいつ頃、どのようにして得ていくつもりなのか

- (2) 昨今の資材費や人件費等の高騰を踏まえ、現段階で整備費用とその財源をどのように見込んでいるのか、また、整備スケジュールについて、どのように考えているのか

- (3) 新県立体育館の整備に際し、県では有料駐車場の設置を計画しているが、新スタジアム整備後に複数の大会等が同時に開催された場合、大混雑が予想されることから、八橋運動公園周辺における駐車場の在り方について、県と協議すべきと思うがどうか

- (4) 文化会館跡地を有料の立体駐車場とすべきと思うがどうか

3 新県立体育館整備事業について

- (1) 県の新県立体育館整備事業については、市民への影響が大きい事業であるが、市長は、どのように捉えているのか、また、今後、県に対してどのような働きかけを行っていくのか

4 財政について

- (1) 令和6年度末を見据え、現段階における主要2基金残高の見通しはどうか、また、物価高騰や人件費の増などの社会情勢を踏まえ、令和7年度以降の財政収支をどのように見通しているのか

- (2) 本市財政の逼迫している状況を市民に明確に伝え、市民サービスへ

の影響について理解を得るべきと思うがどうか

(3) 現在の予算編成方針の考え方では、市民サービスに関する予算が削減されていくことから、真に必要な市民サービスに予算を配分できるような予算編成方針とすべきではないか

(4) 「103万円の壁」の引上げに対する市長の認識はどうか、また、本市財政に与える影響をどう試算し、その対応をどのように考えているのか

## 5 受益と負担の適正化について

(1) 新料金の適用から8か月経過したが、現段階における施設等の利用状況の分析結果はどうか、また、利用者が減少した施設への対応について、どのように考えているのか

(2) 第8次秋田市行政改革大綱実施計画において、令和7年度に料金水準を検討するとあるが、同大綱の計画期間内に再び料金の見直しを行う可能性はあるのか

(3) 施設を再整備しないまま使用料を見直しても、市民の理解を得ることはできないと思うがどうか

## 6 卸売市場余剰地の活用について

(1) 余剰地活用の検討状況はどうか、また、歳入の確保を第一条件として検討を行っていくべきと思うがどうか

(2) 当初予定していた、余剰地の賃貸借による歳入約2,500万円が確保できない場合、どう対応するのか、また、その場合、市場内事業者が負担する市場使用料に影響はあるのか

## 7 除排雪について

(1) 昨冬実施した新たな除排雪の取組について、今冬も継続することであるが、大雪時においても方針どおりに除排雪は行われるのか、また、予算の確保は十分にできるのか

(2) 少雪などにより稼働が少ない場合においても、除排雪機械及びオペ

レーター等の維持確保のため、除排雪業者に対してさらに補償すべきと思うがどうか

## 8 町内会・自治会活動等について

- (1) 本市の町内会・自治会加入世帯数の推移はどうか、また、加入促進のための支援として、今後どのような取組を行っていくのか
- (2) 町内会・自治会に対する支援策の現状と成果はどうか、また、今後の支援の在り方について、どのように考えているのか
- (3) 運営・維持が困難な町内会・自治会に対して、市としてどのように支援していくのか

## 9 市立秋田商業高等学校について

- (1) 校舎の建て替え等に併せて、新たに学生寮を建設する考えはないか

## 10 地域の諸課題について

### (1) 雄和地域の公立保育所の在り方について

- ア 雄和地域公立保育所整備事業の進捗状況はどうか、また、今後の事業スケジュールはどうなっているのか
- イ 新たに整備する施設を、1号認定の子どもの受入れが可能となる保育所型認定こども園とする考えはないか

### (2) 秋田市雄和ふるさと温泉「ユアシス」の改修について

- ア 令和6年度は実施設計業務を行っているが、施設・設備の不具合はなかったのか、また、令和7年度以降の事業スケジュールはどうなっているのか
- イ 資材費や人件費等の高騰が続く中、事業費への影響はあるのか
- ウ 改修工事期間中は施設を休館することとなるが、休館中のパート社員を含む従業員の雇用をどのように考えているのか



1 市長の政治姿勢について

(1) 外旭川地区のまちづくりについて、市長は「モデル地区における官民連携による取組の具体化に向けた検討を進めているほか、地域未来投資促進法の活用に向けた県との協議も継続して行っている」と発言しているが、現在の進捗状況はどうか

(2) 新スタジアム整備について

ア 事業主体やスタジアムの規模、建設費高騰への懸念等、難しい課題が山積みの中で、来年2月までに整備計画のたたき台を作成するとしているが、その間に、県・市・ブラウブリッツ秋田の三者による話合いの場は設けられるのか

イ たたき台ができたとしても、三者の思惑が絡む中で議論をまとめるのは相当難しく、また時間だけが過ぎていくことが懸念されるが、市長としては何を軸とし、いつまでに整備計画をまとめようと考えているのか

2 不登校児童生徒等の支援について

(1) 市立小・中学校における校内教育支援センターの設置状況及び利用者数はどうか

(2) 校内教育支援センターが全ての小・中学校に設置されていない理由は何か、また、設置のための今後の取組について、どのように考えているのか

(3) 本市における学校以外の学びの場にはどのようなものがあり、何人の児童生徒が利用しているのか、また、急増する不登校児童生徒の学習の機会や多様な学びの場の確保のため、今後どのような取組を行っていくのか

(4) 誰一人取り残されない学びの保障のため、また、経済格差により学びが阻害されることがないように、民間のフリースクール等を利用する児童生徒の保護者に対し、利用料を助成してはどうか

- (5) 不登校の児童生徒一人一人の複雑、多様な要因や背景に対応し、適切な支援につなげるため、教育委員会として関係機関との連携をどのように行っているのか

### 3 災害時のトイレ環境整備について

- (1) 能登半島地震で多くのトイレが使用できなくなり、健康への悪影響が広がったという教訓を踏まえ、携帯トイレの備蓄の現状と今後の見通しはどうか
- (2) 在宅避難のための携帯トイレの備蓄について、市民への普及・啓発を進めるべきと考えるがどうか
- (3) 老人福祉施設や障害者支援施設における携帯トイレや簡易トイレの備蓄状況を速やかに確認し、備蓄を支援していくべきと考えるがどうか
- (4) 避難所において、夜間にトイレを使用する際の照明設備の整備状況はどうか
- (5) 災害時において、トイレ環境の整備は、命を守る取組につながるため、本市においてもトイレトレーラーを導入し、災害時に全国の自治体と派遣し合う協定の締結を積極的に検討すべきと考えるがどうか

### 4 新しい認知症観について

- (1) 国の認知症施策推進基本計画に基づき、各自治体は地域の実情に沿った計画の策定に努めることとされているが、本市として策定する考えはあるか
- (2) 認知症サポーターの現在の活動状況はどうか、また、今後「新しい認知症観」を定着させ、共生社会を推進するための取組について、どのように考えているのか
- (3) 認知症の方の行方不明対策の現状はどうか、また、今後の共生社会において、認知症の方が安心して暮らすことができる安全な地域づくりを推進するための施策について、どのように考えているのか
- (4) 認知症特有の行動や心理症状の発生を抑制し、認知症の方と家族等

の尊厳ある暮らしを守るために、福岡市がまちぐるみで推進しているユマニチュードの普及に、本市も積極的に取り組むべきと考えるがどうか

5 帯状疱疹ワクチン接種費用の助成について

- (1) 国の専門家委員会において定期接種化の方針が決定されていることから、市民の健康を守るため、来年度からの助成に向けて予算化すべきではないか
- (2) 本市が接種費用を助成とした場合、県内他市町村や全国の自治体の助成状況を踏まえ、対象年齢は50歳からとし、半額の助成が望ましいと考えるがどうか



## 1 新スタジアムの整備等について

- (1) 都市公園本来の目的に反することなどを理由に整備は困難とされていた八橋運動公園内を整備場所と決定し、県の同意を得たとのことであるが、これまでの問題点はどのように解決していくのか
- (2) 八橋運動公園内に新スタジアムを整備するとなった場合、同公園内に新スタジアムを整備しないことを前提に検討されてきた新県立体育館の議論の前提が崩れることから、新県立体育館整備基本計画検討委員会における再検証や議論のやり直しが必要との見解であったが、この点はどのように解決されたと考えているのか
- (3) 多くの市民が各種スポーツや様々なイベントで通年利用できる、多目的で全天候型のスタジアムを整備すべきではないか
- (4) 新スタジアム及び新県立体育館の整備場所が八橋運動公園内に決定されたことにより、駐車場不足が懸念されることから、県市連携で文化会館跡地に立体駐車場を整備してはどうか、また、整備に当たっては受益と負担を考慮して有料とすべきと考えるがどうか

## 2 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) 外旭川地区まちづくり基本計画を今後どのように見直すのか
- (2) 県との間に地域未来投資促進法の認識に違いがある中、どのように協議を進めていくのか
- (3) 地域未来投資促進法を活用し、外旭川地区を一大工業団地とする考えはないか

## 3 企業誘致について

- (1) 若者に魅力ある企業誘致及び誘致済み企業の事業拡大への支援について、どのように取り組んでいるのか、また、その成果はどうか
- (2) 秋田市とゆかりのある上場企業等への誘致活動も必要と考えるがどうか

(3) 半導体工場や物流施設などの誘致に必要となる産業用地の確保をどのように図っていくのか

#### 4 103万円の壁について

(1) 市長は「103万円の壁」の引上げについて、どのように捉えているのか

(2) 本市の税収にどれほどの影響があると試算しているのか

(3) 103万円の壁が178万円まで引き上げられた場合、令和5年度と比較して住民税非課税世帯数及び教育・福祉等の各種給付サービスにどのような影響があるのか

(4) 秋田市として、地方自治体の財政運営に影響がないよう代替財源の確保などについて、国に対し要望すべきではないか

#### 5 宿泊税導入について

(1) 東北地方においても観光客の少ない本市の現状を鑑みると、宿泊税の導入は時期尚早ではないか

(2) 宿泊事業者から宿泊税に係る事務の煩雑さや宿泊客数が減るなどの懸念の声が上がっているが、宿泊事業者に対する支援は検討しているのか

(3) 宿泊税を導入するとした場合、交流人口拡大に向けてどのような観光振興施策を検討しているのか

#### 6 子育て施策について

(1) 産後も安心して子育てできるよう支援する産後ケア事業の利用状況はどうか、また、さらなる利用拡大に向けて支援拡充を図るべきではないか

(2) 国においては、全国の自治体での「1か月児」及び「5歳児」に対する健康診査の実施を目指しているが、本市における取組状況はどうか、また、5歳児健診を実施するとした場合、発達特性により支援が必要と判断された子どもに対するフォローアップ体制の整備が必要と

考えるかどうか

- (3) 県において「秋田県こども計画」を策定中であるが、本市における策定状況はどうか

## 7 仁井田児童館について

- (1) 老朽化が著しい仁井田児童館を利用する子どもたちの安全安心のために、早急に改築すべきではないか



## 1 市政経営に対する市長の基本姿勢等について

- (1) 市長が、来期以降も引き続き市政を担う場合、最も実現すべきと考えていることは何か
- (2) 新スタジアムの整備地を八橋運動公園とした場合、秋田市外旭川地区まちづくり基本計画の内容は、どのように見直すのか、また、新スタジアムの整備はどのような形で進めていくのか
- (3) 本市として、八橋運動公園の将来ビジョンを早急に示すべきではないか

## 2 令和7年度当初予算と今後の行財政運営等について

- (1) 103万円、106万円、130万円の壁がそれぞれ引上げ・撤廃された場合、本市への影響をどのように考えているのか
- (2) 来年度当初予算は、骨格予算と思われるが、予算編成に当たり、何を重点事項とし、どのような事業に予算を重点配分するのか
- (3) 創生戦略事業に係る一般財源を年々削減し、令和7年度は24億円を上限に配分するとしているが、本市の最重要課題と位置づける人口減少の抑制は可能なのか
- (4) 創生戦略事業以外の部局枠配分を行う政策経費について、一般財源ベースで前年度比5%減とするとのことであるが、市民サービスの維持に影響はないのか、また、影響がないとすれば、その根拠は何か
- (5) 第8次秋田市行政改革大綱の目標である市債残高の抑制に向け、具体的にどう取り組んでいくのか
- (6) 近年は、基金に依存した行財政運営となっており、財政調整基金及び減債基金の残高が減少しているが、両基金残高の確保に向け、具体的にどう取り組んでいくのか

## 3 秋田市新エネルギービジョン等について

- (1) 本市は、「再生可能エネルギーが創るまちの未来」について、どの

ような展望を描いているのか

(2) 本市における経済と環境の好循環の実現に向け、風力発電産業をどう進めていくのか

(3) クリーンエネルギーの地産地活の推進による市民への直接的なメリットは何か、また、地産地活の実現に向けて、具体的にどう進めていくのか

(4) 洋上風力発電の整備や通信用海底ケーブル陸揚局との近接性など、本市の優位性を生かし、データセンターの誘致を強力に推進すべきと考えるがどうか

#### 4 空き家対策について

(1) 本市では、どのような方法で空き家を把握しているのか

(2) 本市における空き家の数は、増加しているのか

(3) 空き家対策の庁内組織を一本化したことにより、どのような効果があったのか

#### 5 不登校対策について

(1) 不登校の児童生徒数が年々増加しているが、本市は、不登校の原因や各校の対応状況等を把握しているのか

(2) 地域住民とのつながりや見守りボランティアの活用など、本市の特色を生かし、不登校児童生徒への対応を関係部局と連携して行うべきではないか

#### 6 秋田市地域防災計画の修正等について

(1) 現在の進捗状況はどうか

(2) 昨年の豪雨災害の検証結果を踏まえて修正する項目は何か、また、修正内容を市民にどう周知するのか

#### 7 消防に関する大規模訓練等について

(1) 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練及び全国救急隊員シン

ポジウムの成果について、どのように捉えているのか

8 ゆき対策について

- (1) 昨冬の除排雪において、本市に早期の排雪を求める声が多数寄せられていたが、市民の声をどのように受け止めた上で、今冬の除排雪を行っていくのか
- (2) 路面積雪10センチメートル以上もしくは、10センチメートルを超えることが予想される際に全ての道路の除排雪を行っているが、降雪が連続的に続く場合、本当に対応できるのか



## 1 本市の防災施策について

## (1) 令和5年7月豪雨災害対応の検証結果について

ア 7月15日に設置された秋田市災害対策本部における、災害情報の集約・発信の問題点は何であったのか、また、今後、災害対策本部の設置に併せて編成される「災害対策本部事務局」が正常に機能するかを検証するための実務訓練が必要ではないか

イ 避難所を速やかに開設するため、解錠担当者が現地に行けないことを想定し、二重三重のバックアップ体制を構築しておくべきと考えるがどうか、また、各避難所のニーズに応じて、施設にキーボックスを設置し、解錠に際して柔軟に対応できるようにすべきと考えるがどうか

ウ 罹災証明書や被害証明書などの申請手続に当たって、受付窓口の混雑を回避するため、早急にオンラインでの申請を可能にすべきと考えるがどうか

エ 災害支援に関するホームページの情報発信について、制度概要と連絡先のみが掲載されている例が見受けられたが、窓口への問合せ件数を減らせるよう、掲載方法を工夫すべきではないか

オ 災害協定を締結している民間企業・事業者と平時から連絡を取り合っていなかったのはなぜか、また、今後の対策をどのように考えているのか

カ 災害ごみを運搬する車両や人員の確保について、今後の対策をどのように考えているのか

キ 避難所運営において、避難者によるトラブルや運営職員へのハラスメントはどの程度あったのか、また、今後の対策についてはどうか

ク 今回の検証により見直される各種運用マニュアルが、正常に機能するかを検証するための実務訓練が必要ではないか

## (2) 能登半島地震における被災地支援を教訓とした災害対応について

- ア ボランティアの人数を確保するため、市外、県外のボランティアが利用できるテントサイトを用意しておくべきではないか
- イ 通信が遮断されたケースを想定し、スターリンクなど衛星を経由した通信環境を確保しておくべきではないか
- ウ トイレトレーラーを導入し、仮設トイレ数確保の一助とするとともに、他自治体が被災した際の援助手段の一つとしてはどうか
- エ 災害ごみを早期に撤去するため、ボランティアが軽トラックや2トントラックを使用できるようにすべきではないか
- オ ボランティア同士の連絡や、災害ボランティアセンターとの連絡がリアルタイムにできる通信機器を準備しておくべきと考えるがどうか

## 2 新スタジアム整備構想に対する振り返りと今後の対応について

- (1) 新スタジアムの整備候補地については、当初、八橋運動公園が候補地の一つとされ、その後、外旭川地区の市街化調整区域、卸売市場余剰地、そして再び八橋運動公園と変遷してきたが、整備候補地を決定するまでに要した経費についてどのように考えているのか
- (2) 今後の整備・運営に当たって、公設民営にするのか、民設民営にするのかの判断基準は何か

## 3 児童館の運営等について

- (1) 学校適正配置に伴い廃止となる小学校区内の児童館の運営方針はどうか、また、備品等の再利用についての方針はどうか
- (2) 夏休み等の長期休業時に、児童厚生員が一人で対応する時間をできる限り避けるための対策を講ずるべきではないか
- (3) エントランスや遊戯室などエアコンが設置されていない箇所についても、エアコンを設置すべきと考えるがどうか

## 4 除排雪について

- (1) 令和6年度の除排雪の取組における重点施策は何か

- (2) 令和5年度の全市一斉除雪の際に発生した、除雪作業と排雪作業の時間差をどのように改善するのか
- (3) 令和5年度から導入した自動音声案内の内容を充実させ、オペレーターの負担を軽減すべきと考えるがどうか
- (4) 除排雪アンケートについて、SNSを活用した集計だけではなく、これまで実施してきた町内会長を対象とした集計を継続すべきと考えるがどうか

5 土崎みなと歴史伝承館の展示内容の充実等について

- (1) 曳山行事や土崎空襲の展示以外にも、土崎地区の歴史及び文化を通じた企画展を拡充すべきと考えるがどうか
- (2) 先端技術を活用した土崎空襲の語り部のバーチャルモデルを作成し、永久に土崎空襲を語り継ぐ展示をしていくべきではないか
- (3) クルーズ船の来航に伴い秋田港へ訪れる観光客等を、土崎みなと歴史伝承館に誘客するための施策を考えるべきではないか



1 洋上風力発電等による本市のまちづくりについて

(1) 再生可能エネルギーを活用した産業振興の取組について

ア 一般海域における洋上風力発電事業に対し、市としてどのような立場で関与していくのか、また、将来を見据えた浮体式の導入も推奨すべきと考えるがどうか

イ 洋上風力発電に係る風車の部品は海外からの輸入に頼っている現状であることから、部品の生産を本市産業の一翼とするため、製造を行う企業に対して支援してはどうか、また、新エネルギー関連企業を積極的に誘致すべきと考えるがどうか

ウ 洋上風力発電事業は新しい経営戦略を持って取り組むべき産業であり、人材の育成と確保が不可欠であることから、大学や高等専門学校などの教育機関と連携し、若者の地元定着を図るべきと考えるがどうか

エ 洋上風力発電の導入による本市への経済波及効果と、電気料金の引下げなど、市民への利益還元の見通しについて、どのように考えているのか

オ 洋上風力発電事業の観光資源化に伴う交流人口の拡大により、視察者、特に中学・高校の修学旅行生などの増加が見込まれるが、その受入れ体制はどうか、また、将来的には船舶による視察も視野に入れてはどうか

カ 男鹿市、潟上市及び秋田市沖において、21基の着床式洋上風力発電を令和10年6月に稼働予定としているが、そのうち何基を本市沖に建設する予定なのか、また、海域の境界線は決まっているのか、さらに、発電設備の立地により固定資産税が発生すると思われるがどうか

キ 再生可能エネルギーを核とする工業団地を整備するとしているが、どのような産業拠点になるのか、また、再エネの地産地活の実現のため、具体的にどのように取り組んでいくのか

## 2 農業振興について

- (1) 農業の担い手不足や高齢化などにより、農業を取り巻く環境が厳しい状況を迎えているが、本市農業の現状と今後の農業政策について、どのように認識しているのか
- (2) 将来を見据えた地域農業の設計図となる「地域計画」を策定することにより、各地域にどのようなメリットがあるのか、また、一般法人の農業参入の見通しはどうか
- (3) 本市の農家・農業法人の数はどうか、また、特に中山間地域の農家数については、数年で消滅するとも言われるほど減少が深刻であるが、本市はどのように捉え対応していくのか
- (4) 本市のスマート農業の取組状況とその支援策はどうか
- (5) 地域ぐるみで有機農業を進める「オーガニックビレッジ」が全国で拡大しているが、本市の取組はどうか
- (6) 農業を持続可能にしていくためには、農産物の付加価値を高めていくことが肝要と考えるが、現在の取組状況はどうか、また、本市の6次産業化の取組状況はどうか

## 3 教育について

- (1) 中学校の部活動地域移行について
  - ア 国では令和7年度末までを改革推進期間としているが、本市の現状はどうか、また、受皿となる地域スポーツ団体等との連携はどうか
  - イ 本格的に地域移行となった場合、生徒の健康管理や保護者の費用負担等が課題になると考えるが、どのように認識しているのか
  - ウ 他市においては、中学校を拠点として部活動を継続し、希望する教職員に報酬を支払い、部活動の指導に当たらせる事例があるが、このことについてどう捉えているのか
  - エ 地域移行後、教員が休日に兼業の許可を得て指導を希望した場合、報酬等の負担はどうなるのか

オ 文化部の地域移行は進んでいるのか、また、特に吹奏楽部は、重い楽器の運搬など、移動に負担がかかると思うが、どう考えているのか

(2) 中学生の県外高校への進学について

ア スポーツなどで優秀な成績を収めた生徒が、県内で競技を続けたい意向があっても、県内高校の入学者選抜方法が変更されたことにより、早期に合格が決まる県外高校に進学してしまう事例もあると聞くが、教育長の認識はどうか

(3) 小・中学生の不登校について

ア 不登校の児童生徒が増える要因の一つに、学校現場の教員が一人一人と向き合う時間が取れなくなっていることが挙げられるが、教育長の認識はどうか

イ 学校に配置されているスクールカウンセラーや教育支援センター「すくうる・みらい」などによる支援により、どのような効果が出ているのか

(4) 市立小・中学校及び高等学校等の図書購入について

ア 図書室は学びを支える基盤であり、一冊の出会いが人生の糧になるとも言われ、児童生徒が「気づく、考える」教育として大切なことから、図書室の充実と図書購入費の増額をすべきではないか

(5) 小・中学校の修学旅行について

ア 宿泊先のホテルや旅館などの料金が高騰し、保護者負担が多いことから、何らかの支援策を講ずるべきではないか

(6) 廃校舎等の利活用について

ア 統合により廃校になった校舎等の活用方法について、現状と今後の方向性はどうか

イ 統合に伴い、廃校になった校舎等を速やかに普通財産に移行すべきと考えるがどうか

ウ 廃校後の校舎等の利活用について、教育委員会をはじめ部局間での検討は行われているのか